

出前授業・模擬選挙
地方公共団体主体
小学生等

模擬議会・議員との交流
若者議会・こども議会
高校生

大学・若者グループ等との交流
特別支援学校生

【参考】

学校・民間団体が主体の取組
若者層(10～20代)

取組主体

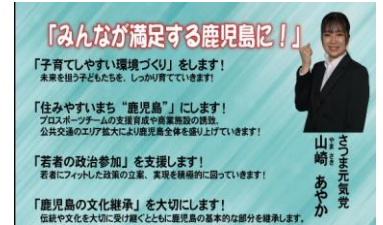
選挙管理委員会

⑥鹿児島市（鹿児島県）（人口597,834人）※令和5年1月1日現在

特別支援学校も含めた様々な学校での出前授業・模擬選挙

■取組の概要

- 選挙権年齢の引き下げをきっかけに、平成27年度から本格的に出前授業・模擬選挙を実施。開始当初から特別支援学校にも出前授業を実施。
- 取組に際しては、若者の選挙啓発団体である選挙コンシェルジュ鹿児島の協力を得ており、令和4年度は演説動画のリニューアル等を実施。



実施概要

実施年度	平成27年度から毎年実施（令和2、3年度は新型コロナの影響もあったが事業継続）
対象者	市内公立学校 （特別支援学校は主に全学年。小・中・高校は主に各最高学年。）
参加者数	35校 3,000名程度（うち特別支援学校1校 30名程度）（令和4年度）
事業規模（予算）	例年なし（令和4年度のみ演説動画作成で12万円）

■実施の経緯

<取組を開始するに至った経緯>

- 選挙権年齢の引き下げをきっかけに平成27年度から取組が本格開始。当時、学校側も出前授業に関心を持っていた。また同年度に鹿児島県議会議員選挙があったことも受け、選挙コンシェルジュ鹿児島の取組も開始。

■実施の体制

<庁内の実施体制>

- 主担当が2人（管理啓発係、専任）。授業当日は主担当の他、2～3名程度の課内の選挙係の協力を得て模擬選挙も対応。（模擬選挙がない場合は専任の2名で対応）

<外部との連携体制>

- 鹿児島市明るい選挙推進協議会の他、高校生・大学生で構成される選挙啓発団体である、選挙コンシェルジュ鹿児島と連携。演説動画のリニューアルの他、出前授業当日のサポートも。

■取組の効果・成果

- 模擬選挙実施後のアンケート結果からは、8割程度は授業への満足度も高く、生徒から「思ったより難しくなかった」の感想も届く等、概ね肯定的に評価されている。教員からの感謝の手紙も届いている。選挙コンシェルジュ鹿児島がサポートした出前授業では、授業後に生徒から演説動画の感想が届くこともある。
- 選挙コンシェルジュ鹿児島の中には啓発活動を通じて、行政の業務に関心を持ち公務員を目指す学生もいる。



<これから取組を始める団体へのメッセージ>

「臨時啓発より常時啓発」を基に、将来の有権者への取組が大切と考えます。学校との打合せを簡略化する等工夫しながら、取組を開始できたら良いのではないかと。

★より詳しい情報はこちらへ [【鹿児島市 出前授業の案内】
https://www.city.kagoshima.lg.jp/senkyokanri/senkyokanri/demae.html](https://www.city.kagoshima.lg.jp/senkyokanri/senkyokanri/demae.html)



■取組のステップとポイント

①事前準備

【前年度12月】市内学校に対し出前授業実施の依頼を发出、スケジュール調整

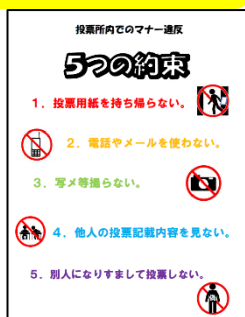
- ・市が市内の全学校に出前講座希望を聴取。（県でも実施）
- ・様式には授業の希望日だけでなく希望内容を記載可能。
- ・ウェブサイトには当日の進行要領例や講義資料ひな形も提示。

【前年度3月】決定通知の发出

- ・希望のあった学校へ実施決定通知を发出。
- ・総選挙等の影響によっては、急遽スケジュールが変わる旨も伝達。

【実施1か月前】実施計画案の送付（必要に応じ打合せ）

- ・実施計画案として当日のスケジュール案や配置図イメージ等を送付。
- ・必要があれば打合せを実施。
- ・毎月報道関係者に今月の出前授業実施予定校を提供。



投票所でのマナー違反の案内

- ・当日は授業の1時間前に学校に到着し、模擬選挙等の設営を実施。

<当日の流れ>

※特別支援学校での実施例

1. 選挙講座（10分）

選挙権年齢や投票方法の諸注意も提示。右の選挙啓発動画も用いて説明。クイズ形式で行うことも。



選挙啓発動画

2. 個人演説（15分）

選挙コンシェルジュ鹿児島島の作成した演説動画の放映。



選挙講座の様子

3. 模擬選挙（10分）

4. 開票（8分）

開票機材の説明6分と開票結果の発表2分。



演説動画

②取組実施

③実施後

- ・受講生向けにアンケートを実施。
- ・生徒には①授業の満足度（内容、時間）、②模擬選挙の内容の理解度、③投票の重要性、④投票に行こうと思うか、⑤候補者を選んだ理由等を尋ねている。

【ポイント】

- ・学校が翌年度の年間計画を立てるであろう時期（前年度の12月）から照会をかけている。同時に、年度途中（例えば実際の選挙がある等の理由）に急遽開催してほしい等のニーズにも柔軟に対応している。
- ・教員の多忙な状況も理解し、**極力打合せは省略し、申込様式によって授業のニーズ等を確認している。**初回実施等で打合せのニーズがあるときは、**別の学校での実施時の様子を写真で見せたりして、イメージを持てるようにしている。**

【申込用紙の記載事項】

- ・希望テーマ
- ・希望日時（第一、第二希望）
- ・特に説明を受けたい事項
- ・報道機関へのリリースの可否 等

【ポイント】

- ・授業は45～50分と限られているため、その中でスムーズに模擬選挙も含めて実施できるようにしている。
- ・演説動画は、選挙コンシェルジュ鹿児島の高校生・大学生の視点から、今のこどもたちが興味関心を持ってもらえるように、という視点で小学生用と中・高生用の2種類作成している。
- ・特別支援学校では、**車いすの台数や自署の可否、伝わりやすい表現等を事前に確認し、実際の投票と出来るだけ近い状況を整えている。**
- ・障害の程度にかかわらず、「**投票ができた**」という経験を積むことが**まず重要な一歩だ**と考えている。

【ポイント】

- ・小学校～高校でアンケートの内容は変えており、特に高校では政治や選挙に関心を持つための**具体的な啓発手段**についても調査をしている。